

産業医科大学麻醉科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻醉科専門医制度の理念

麻醉科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻醉科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻醉科専門医の使命

麻醉科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。麻醉科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻醉管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムでは、専門研修基幹施設である産業医科大学病院、専門研修連携施設Aである地域医療機能推進機構九州病院、北九州総合病院、製鉄記念八幡病院、済生会八幡総合病院、北九州市立八幡病院、北九州市立医療センター、小倉記念病院、健和会大手町病院、飯塚病院、福岡市立こども病院、福岡徳洲会病院、佐賀大学医学部附属病院、大分大学医学部附属病院、宮崎大学医学部附属病院、鹿児島大学病院、専門研修連携施設Bである産業医科大学若松病院、九州労災病院門司メディカルセンターにおいて、専攻医が整備指針に定められた麻醉科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻醉科専門医を育成する。麻醉科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻醉科専攻医研修マニュアル**に記されている。

産業医科大学病院は、北九州唯一の特定機能病院として高度医療を提供し続けており、また地域がん診療連携拠点病院、総合周産期母子医療センターとしても地域において重要な役割を担っている。当大学の手術症例は多岐にわたっており、ほぼ全ての外科系手術の麻醉管理の研修が可能であり、特殊疾患患者の手術も多いため、質の高い教育を提供することができる。特に肺外科手術の症例数は全国有数であり、短期間

での知識・技術の習得が可能である。2023年8月に手術室・集中治療室を含む急性期診療棟が新たに開設され、手術室の増設（ハイブリッド手術室を含む）に伴い先進的な手術も多数可能になり、さらに多種・多様な麻酔管理の研修が可能となっている。

また、心臓外科手術症例の豊富な地域医療機能推進機構九州病院や小倉記念病院、整形外科手術を特徴とする労災病院、小児手術の豊富な北九州市立八幡病院など、それぞれに特徴を持つ病院を専門研修連携施設として持つことにより、さらに充実した研修を提供することが可能である。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の4年間のうち2年間は、専門研修基幹施設である産業医科大学病院で研修を行う。産業医科大学病院では手術麻酔研修に加え、希望により集中治療、救急医療、ペインクリニックの研修を行うことができる。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築する。
- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、小児診療を中心に学びたい者へのローテーション（後述のローテーション例C,D）、集中治療を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例E,F）ペインクリニックを学びたい者へのローテーション（ローテーション例G）、など、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する。
- 地域医療の維持のため、最低でも6ヶ月以上は地域医療支援病院である地域医療機能推進機構九州病院、北九州総合病院、製鉄記念八幡病院、市立八幡病院等のいずれかの施設で研修を行う。また、希望によっては他県の佐賀大学医学部附属病院、大分大学医学部附属病院、宮崎大学医学部附属病院、鹿児島大学病院での研修も可能。

研修実施計画例

	A（標準①）	B（標準②）	C（小児①）	D（集中治療①）	E（集中治療②）
初年度 前期	本院	本院	本院	本院	本院
初年度 後期	本院	本院	本院	本院	本院
2年度 前期	大分大学	JCHO九州病院	宮崎大学	鹿児島大学	本院 (集中治療)
2年度 後期	製鉄記念八幡 病院	大分大学	市立八幡病院	鹿児島大学	本院 (集中治療)

3年度 前期	JCHO九州病院	市立八幡病院	JCHO九州病院	本院 (集中治療)	JCHO九州病院
3年度 後期	JCHO九州病院	北九州総合病院	JCHO九州病院	本院 (集中治療)	JCHO九州病院
4年度 前期	本院	本院	本院	JCHO九州病院	鹿児島大学
4年度 後期	本院	本院	本院	市立八幡病院	鹿児島大学

	F (ペイン)	G (佐賀)	H (大分)	I (宮崎)	J (鹿児島)
初年度 前期	本院	本院	本院	本院	本院
初年度 後期	本院	本院	本院	本院	本院
2年度 前期	市立八幡病院	佐賀大学	大分大学	宮崎大学	鹿児島大学
2年度 後期	市立八幡病院	佐賀大学	大分大学	宮崎大学	鹿児島大学
3年度 前期	本院 (ペイン)	北九州総合病院	JCHO九州病院	製鉄記念八幡病院	JCHO九州病院
3年度 後期	本院 (ペイン)	JCHO九州病院	北九州総合病院	JCHO九州病院	北九州総合病院
4年度 前期	JCHO九州病院	本院	本院	本院	本院
4年度 後期	本院 (緩和医療)	本院	本院	本院	本院

週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み
午後	手術室	術前外来	手術室	休み	手術室	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

産業医科大学病院

研修プログラム統括責任者：堀下 貴文

専門研修指導医：堀下 貴文（麻酔）

寺田 忠徳（麻酔，ペインクリニック，緩和医療）

濱田 高太郎（麻酔）

福井 遼（麻酔）

武末 美幸（麻酔）

橋本 航（麻酔）

原 幸治（麻酔，ペインクリニック）

専門医：長坂 アイ子（麻酔）

瀧山 さゆり（麻酔）

金田 翔吾（麻酔）

神野 正航（麻酔）

高場 絹子（麻酔）

認定病院番号：184

特徴：産業医科大学病院は、北九州唯一の特定機能病院として高度医療を提供し続けており、地域がん診療連携拠点病院としても地域において重要な役割を担っている。また、手術症例は多岐にわたっており、ほぼ全ての外科系手術の麻酔管理の研修が可能であり、特殊疾患患者の手術も多いため、質の高い教育を提供することができる。

② 専門研修連携施設A

1) 地域医療機能推進機構九州病院

研修実施責任者：吉野 淳

専門研修指導医：吉野 淳（麻酔）

芳野 博臣（麻酔）

松本 恵（麻酔）

今井 敬子（麻酔）

水山 有紀（麻酔，集中治療）

濱地 良輔（麻酔）

梅崎 有里（麻酔）

認定病院番号：257

特徴：北九州市西部を中心に遠賀・中間地域や直方・鞍手地域の地方急性期医療を担っている。超低出生体重児から超高齢者まで，さらに成人先天性心疾患合併妊婦やハイリスク妊婦，循環器や呼吸器系に重篤な合併症を抱えた患者も受け入れている。

2) 北九州総合病院

研修実施責任者：青山和義

専門研修指導医：青山 和義（麻酔）

竹田 貴雄（麻酔，ペインクリニック）

西村 昌泰（麻酔）

竹中 伊知郎（麻酔）

野上 裕子（麻酔）

佐藤 珠美（麻酔）

専門医：添田 祐治（麻酔）

認定病院番号：447

特徴：当院は救命救急センターを有し，高度外傷をはじめ多彩な緊急手術を経験できる。神経ブロック併用の整形外科手術も多い。小児，胸部外科，脳神経外科，帝王切開などの経験必要症例もバランスよく研修可能である。

3) 製鉄記念八幡病院

研修実施責任者：池崎 晃

専門研修指導医：池崎 晃（麻酔）

村中 健二（麻酔）

認定病院番号 No. 435

特徴：当院には産科や心臓血管外科はないが，ASOや透析など動脈硬化因子の多数ある患者や，胸部外科手術の麻酔を数多く研修することが可能である。また術後鎮痛に力を入れており，持続硬膜外麻酔だけでなく超音波ガイド下の末梢神経ブロックを多数経験することができる。

4) 済生会八幡総合病院

研修実施責任者：山本 智徳

専門研修指導医：山本 智徳（麻酔）

白石 宗大（麻酔）

小原 剛（麻醉）

片岡 和史（麻醉）

認定病院番号 789

特徴：脳外科症例多数.

古くから人工透析施設として存在しており腎移植症例も年間数例あり.

5) 北九州市立八幡病院

研修実施責任者：金色 正広

専門研修指導医：金色 正広（麻醉）

齊藤 将隆（麻醉）

認定病院番号：326

特徴：形成外科症例を含めて、小児の症例が多い.

6) 北九州市立医療センター

研修実施責任者：加藤 治子

専門研修指導医：加藤 治子（麻醉，ペインクリニック）

齋川 仁子（麻醉）

原賀 勇壮（麻醉，緩和ケア，ペインクリニック）

武藤 官大（麻醉，ペインクリニック，災害）

武藤 佑理（麻醉，ペインクリニック）

神代 正臣（麻醉，緩和ケア，ペインクリニック）

豊永 庸佑（麻醉）

松山 宗子（麻醉）

中野 涼子（麻醉）

専門医：小川 のり子（麻醉，ペインクリニック）

認定病院番号：316

特徴：高度型がん診療拠点病院であり，ロボット支援手術を筆頭に高度がん医療の麻醉管理を行います。総合周産期母子医療センターも有しており，超緊急帝王切開を含め産科急患や，出生直後の新生児外科症例を経験します。ペインクリニック（ペインクリニック学会指定研修施設）や緩和ケア（がん治療支援）も学ぶことができます。

7) 小倉記念病院

研修実施責任者：宮脇 宏

専門研修指導医：宮脇 宏（麻醉，集中治療）

中島 研（救急）

角本 眞一（麻醉，集中治療）

近藤 香（麻酔，集中治療）
松田 憲昌（麻酔，集中治療）
栗林 淳也（麻酔，集中治療）
白源 清貴（麻酔，集中治療）
白源 浩子（麻酔，集中治療）
溝部 圭輔（麻酔，集中治療）
小林 芳枝（麻酔，集中治療）
生津 綾乃（麻酔，集中治療）
柳 明男（麻酔，集中治療）
釜鳴 紗桐（麻酔，集中治療）
新井 睦（麻酔，集中治療）

認定病院番号：52

特徴：心臓大血管手術のみならず，TAVR，Mitral clipなどの低侵襲手術にも力を入れている．循環器疾患を合併した非心臓手術の麻酔症例も数多く経験できる．集中治療にも力を入れている．

10) 健和会大手町病院

研修実施責任者：下里 アキヒカリ

専門研修指導医：星野 典子（麻酔）

下里 アキヒカリ（麻酔，集中治療）

大辻 真里（麻酔，集中治療）

松尾 智子（麻酔）

大城 茜（麻酔）

大城 正哉（麻酔）

専門医：玉崎 庸介（麻酔，集中治療）

塩塚 健太（麻酔，集中治療）

津田 太陽（麻酔）

認定病院番号：1346

特徴：健和会大手町病院では，救急告示病院として1次から3次救急まで年間約8500台の救急車を受け入れています．また、急性期だけでなく，一般病床と療養型病床をあわせもつケアミックス病院です．周辺地域に対しては，地域医療支援病院として，地域の開業医や施設と連携して地域ネットワーク作りを積極的に行っています．

麻酔科研修においては外傷を中心とした急性期の手術麻酔のみならず，救急外来や集中治療室のローテーションも可能です．

11) 株式会社麻生 飯塚病院

研修実習責任者：尾崎 実展

専門研修指導医：尾崎 実展（麻酔, acute pain service）

内藤 智孝（麻酔, 神経ブロック）

田平 暢恵（麻酔）

鵜島 雅子（麻酔）

濱井 優輔（麻酔）

満田 真吾（麻酔）

認定病院番号：539

特徴：当院は救命救急センター、福岡県総合周産期母子医療センターに認定されており、麻酔科は超未熟児を除くほとんどすべての緊急手術に対応している。また地域がん診療連携拠点病院であり、幅広い悪性腫瘍の手術を行っているが、肝胆膵手術、肺手術の症例数が特に豊富である。心身合併症センターを運営しており、精神疾患で周術期管理困難と思われる近隣患者の受け入れも行っている。開心術、TAVI、大動脈手術（開胸・開腹およびステント留置）、重症下肢虚血血行再建など心臓血管外科領域での幅広い手術を行っており、心臓血管麻酔専門医認定施設である。

12) 福岡市立こども病院

研修実施責任者：水野 圭一郎

専門研修指導医：水野 圭一郎（麻酔）

泉 薫（麻酔）

住吉 理絵子（麻酔）

藤田 愛（麻酔）

賀来 真里子（麻酔）

石岡 泰知（麻酔）

認定病院番号：205

特徴：サブスペシャリティとしての小児麻酔を月30～50例のペースで集中的に経験できる。新生児を含む小児全般の気道・呼吸・循環管理の実践的な研修が可能。地域周産期母子医療センターであり、超緊急を含む帝王切開や双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼などの周産期手術の麻酔管理も経験できる。外科・整形外科・泌尿器科・産科の手術では硬膜外麻酔・神経ブロックを積極的に用いている。急性痛治療にも力を入れており、麻酔科主導で硬膜外鎮痛やPCAを管理している。先天性心疾患の手術件数・成績は国内トップレベルを誇り、研修の進達度に応じて複雑心奇形の根治手術・姑息手術の麻酔管理の担当も考慮する。

13) 医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院

研修実施責任者：責任者：北川 忠司

専門研修指導医：海江田 令次（麻酔，ペインクリニック）

廣田 一紀（麻酔，ペインクリニック，緩和ケア）

鳴尾 匡司（麻酔）

北川 忠司（麻酔）

丸内 貴子（麻酔，ペインクリニック）

瀬戸口 大典（麻酔）

吉野 裕子（麻酔，ペインクリニック）

向江 美智子（麻酔，集中治療）

三根 里絵（麻酔）

認定病院番号：689

特徴：年間10,000件を超える救急車を受け入れており，外傷，くも膜下出血，大動脈解離，急性腹症，帝王切開術などの緊急手術症例を数多く経験できる．また，地域医療支援病院として，地域医療の担い手となる実践的な麻酔科専門医を育成する．

14) 佐賀大学医学部附属病院

研修実施責任者：坂口 嘉郎

専門研修指導医：坂口 嘉郎（麻酔，集中治療）

山田 信一（ペインクリニック・緩和ケア）

富田 由紀子（麻酔）

谷川 義則（麻酔，集中治療）

中川内 章（麻酔，集中治療）

山下 友子（集中治療）

中村 公秀（麻酔，集中治療）

久我 公美子（麻酔）

専門医：原野 りか絵（麻酔，ペインクリニック）

野口 洋（麻酔）

奈良崎 小百合（麻酔）

松林 佑亮（麻酔）

八坂 信介（麻酔）

認定病院番号 238

特徴：佐賀大学病院では豊富で幅広い手術が行われ，ロボット支援下手術やハイブリッド手術室での血管内治療など高度で先進的な手術，合併症を有する重症患者の手術も多い．専門研修に求められる多様な麻酔症例，手技を十分に経験できる．ペインクリニック，集中治療の研修も可能である．

15) 大分大学医学部附属病院

研修実施責任者：松本 重清

専門研修指導医：松本 重清（麻酔，集中治療）

新宮 千尋（麻酔）

内野 哲哉（麻酔）

山本 俊介（麻酔，集中治療，ペインクリニック・緩和）

金ヶ江 政賢（麻酔）

安部 隆国（麻酔，集中治療）

小山 淑正（麻酔，心臓麻酔）

大地 嘉史（麻酔，集中治療）

甲斐 真也（麻酔，集中治療）

中野 孝美（麻酔）

佐々木 美圭（麻酔，ペインクリニック・緩和）

栗林 由英（麻酔、集中治療）

小坂 麻里子（麻酔，集中治療，心臓麻酔）

中村尚子（麻酔）

池邊 朱音（麻酔）

認定病院番号：237

特徴：麻酔管理だけでなく，周術期管理医学として，ペインクリニックや集中治療の教育にも力を入れている．希望者は緩和ケアチームへのローテーションも可能．

16) 宮崎大学医学部附属病院

研修実施責任者：恒吉 勇男

専門研修指導医：恒吉 勇男（麻酔，集中治療，ペインクリニック）

指宿 昌一郎（麻酔，手術部）

谷口 正彦（集中治療）

山賀 昌治（ペインクリニック）

山下 幸貴（集中治療）

矢野 武志（麻酔）

丸田 豊明（麻酔）

川崎 祐子（麻酔）

与那覇 哲（集中治療）

田村 真由子（麻酔）

越田 智広（集中治療）

石山 健次郎（麻酔）

深尾 麻由（麻酔）

児玉 芳史 (麻酔)

長嶺 佳弘 (麻酔)

太田尾 剛 (麻酔)

認定病院番号：174

特徴：宮崎大学では、麻酔の初歩から食道がん手術や心臓手術などの高度な麻酔に加え、ICUやペインクリニックなどの専門技術を習得する。最先端手術のTAVI手術やロボット手術（ダビンチ手術）の麻酔も経験できる。

17) 鹿児島大学病院

研修実施責任者：松永 明

専門研修指導医：松永 明 (麻酔, 心臓血管麻酔)

中原 真由美 (麻酔, 集中治療)

山田 知嗣 (麻酔, 区域麻酔)

内野 えりか (麻酔, 集中治療)

五代 幸平 (麻酔)

向原 桂香 (麻酔)

榎畑 京 (麻酔, ペインクリニック)

針持 想 (麻酔, 心臓血管麻酔)

萩原 信太郎 (麻酔, ペインクリニック)

櫻井 絵里 (麻酔)

石塚 香名子 (麻酔)

野田 美弥子 (麻酔, 緩和)

西藤 智照 (麻酔, 小児麻酔)

大徳 晋久 (麻酔)

河野 朱美 (麻酔)

鮫島 弘子 (麻酔)

佐藤 朋世 (麻酔)

認定病院番号：56

特徴：ペインクリニック, 集中治療のローテーション可能。すべての特殊症例の経験が可能。大学院での研究も可能。

③ 専門研修連携施設B

1) 産業医科大学若松病院

研修実施責任者：緒方 裕一

専門研修指導医：緒方 裕一（麻酔，ペインクリニック）

秋山 沙織（麻酔）

専門医：三好 早紀（麻酔）

認定病院番号：1533

特徴：産業医科大学病院の分院として，麻酔科専門医3名の3人体制で手術麻酔およびペインクリニックを実施している．手術麻酔の管理においては，外科，整形外科，婦人科，泌尿器科などの手術症例を経験することができる．また，産業医科大学病院の分院であることを生かし，ペインクリニックにおける痛みの治療に焦点を当てた研修を実施することも可能である．

2) 九州労災病院門司メディカルセンター

研修実施責任者：永田 健充

専門研修指導医：永田 健充（麻酔）

堀下 玲子（麻酔）

認定病院番号：550

特徴：社会構造の変化により海運・港湾の門司港は観光地「門司港レトロ」となり，人口減少と高齢化が加速している．高齢化率は北九州市の行政区の中でもっとも高く，患者層も高齢者が大多数を占め，高齢者麻酔の研修が数多く可能である．

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2024年9月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，産業医科大学麻酔科専門研修プログラム website，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

産業医科大学医学部 麻酔科学 教授 堀下 貴文

福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号

TEL 093-691-7265

E-mail thori@med.uoeh-u.ac.jp

Website http://www.uoeh-u.ac.jp/kouza/masui/intro_j.html

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた**専門知識**、**専門技能**、**学問的姿勢**、**医師としての倫理性と社会性**に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた**経験すべき疾患・病態**、**経験すべき診療・検査**、**経験すべき麻酔症例**、**学術活動**の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2 度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪い ASA 3 度の患者の周術期管理や ASA 1～2 度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修 3 年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット**、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての〇〇病院、〇〇病院、〇〇病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む)の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します。